

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	株式会社シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	愛媛県今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成21年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成17年3月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。
 「食事」…「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。
 「食事」…自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。
 「運動」…体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。
 「水分」…1日1500ccを目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。
 「排泄」…排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。
 ・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が、祖母を家庭で看取った経験から、その経験を活かしたケアを実践したいとの思いで開設したホームである。管理者の思いに共感した職員が、その思いを活かして理念を構築し、職員は前向きな姿勢をもち、自主的に種々の研修に参加して、ケアの質の向上に努めている。また、アドバイスを受けた点等は、即改善につなげている。利用者に対しては、一人ひとりを理解し、それぞれが持っている力をその人に合った場面で活かし、利用者が自信を持って生活を楽しめるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりの家

(ユニット名) えがお

記入者(管理者)

氏名 桧垣 和恵

評価完了日 平成21年11月19日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、職員全員で作ったものである。フロアの目的に届くところに掲げている。ミーティングで、実践に向けての取り組みの評価を話し合っている。</p> <p>(外部評価) 全職員で「自分たちだったらどんなところで、どんな生活を送りたいか」を話し合い、「自由で笑顔がある、心かよう生活を共にしましょう」の理念を構築している。利用者と共に生活する姿勢が、平易で誰にも分かりやすい言葉で表現されている。玄関の見やすいところに掲げ、職員は朝夕確認して、ケアの基本として実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事ごとに、参加している。</p> <p>(外部評価) 毎日の散歩等を通じて地域住民との交流を図っている。最近は顔馴染みになり、野菜等をいただくこともあるなど、良好な関係がある。また、近隣にある障害者施設の喫茶に出かけたり、行事に参加するなどして交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 講師を迎え、家族や地域の人々との勉強会を開催している。 地域の広報等に、載せ呼びかけを行う。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、概ね、二ヶ月に一度開催している。ホームの取組みや利用者の状況報告、外部評価への取組みを話し合い、ホームの運営に活かしている。	
			(外部評価) 2か月毎に運営推進会議を開催している。ホームから利用者の状況やホームの行事などを報告し、参加者から要望やアドバイスをもらい、それを全職員で評価して、サービスの質の向上や運営の充実につなげている。	多くの方からの幅広い意見やアドバイスを得て、さらにサービスの質の向上につなげるため、参加メンバーを固定化することなく、民生委員や町内の方、家族、地域包括支援センター等へも参加を呼びかけていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ、市町村役場の方に、相談や助言を頂いている。家族会や行事ごとを案内して、交流の機会を確保している。	
			(外部評価) 市担当者に運営推進会議に参加してもらってアドバイスを得たり、ホームの勉強会に招いて講師をしてもらうなど、日頃から連携を図るよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体束縛に関する研修会に参加して、知識を得ている。また、ミーティングで報告勉強会を行い、正しい理解ができケアに活かしている。	
			(外部評価) 身体拘束に関する研修会に参加し、そこで得た知識を職員会で全職員に周知し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止に関する研修会に参加し、知識を得ている。また、ミーティングで報告勉強会を行い、正しい理解を得ている。職員同士で、見過ごすことのないように常に声を掛け合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修に参加し、社内研修で報告、勉強会を行っている。必要な方には、説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は重要事項説明書や契約書に沿って丁寧に説明している。不安なことや不明なことに対しても分かりやすく説明するよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談窓口を重要事項説明書にて明記し、玄関に意見箱を設置している。家族会で、気軽に意見を頂けるようにしている。	
			(外部評価) 相談窓口を重要事項説明書に明記し、説明している。また、玄関には意見箱を設置しているが、投書はない。職員は、家族の訪問があった際や、家族会に参加した時等の機会を捉え、日ごろから声をかけて家族の要望をうかがうよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月2回の職員ミーティングで意見交換を行っている。日々のコミュニケーションを行い、意見を運営に活かしている。 (外部評価) 代表者や管理者は、常に職員の意見を聞く姿勢で運営に取り組んでおり、職員からの意見は随時取り入れている。利用者の安全のための整備や職員教育のための参加費・出張等について、提案を活かして改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状態を把握して評価している。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修・外部研修に参加し、随時報告会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修参加等で交流の機会がある。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) はっきりとした訴えが伝えにくい方にも寄り添い理解に努めている。本人に寄り添って援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) お話する機会を積極的に設けて、思いを良く聞き、受けとめる努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員間で話し合ったり、関係者の意見を踏まえ必要なことを検討して対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽をともにできる関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や旅行、行事など、ともに過ごす時間を確保し、自然な形で一緒に介護に関わることで気持ちの共有を図っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで馴染みの場所に行ってみることもある。馴染みの人との関係を把握し手紙や葉書を出す支援をしている。 (外部評価) 面会記載簿から、来訪者がとても多いことがうかがえる。家族はもちろん近所の方や友人・知人等の来訪もあり、訪問しやすいホームの特徴が現れている。訪問者の少ない利用者については、ドライブで馴染みの場所に出かけたり、手紙や電話で連絡を取るなどして、関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ともに支え合い笑顔あふれる生活ができるよう、職員や他の利用者と有効な関係づくりに配慮している。家事や余暇活動などをしながら、自然なコミュニケーションができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じて、面会、相談などの支援を行っている。関係者に対しての情報伝達も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や思いを日常の関わりの中で知り、受けとめる努力をしている。	
			(外部評価) 利用開始時はもちろん、日頃の関わりの中で、これまでの暮らしぶりや家族に対する思い、本人の意向等について聞き取っている。また、食の嗜好やこだわりなどについても機会を捉えて把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴などを継続的に聞き、把握に努め、本人や家族の理解、支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は研修等だ利用者の支援方法のありかたを学び、総合的な支援ができる力が養えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握し、チームでよく話し合っ て介護計画を作成している。必要に応じての見直しを行い、よりよいケアの実践へつなげている。</p> <p>(外部評価) 以前は担当制を取っていたが、利用者全員の状況把握が全職員で共有できていないため、全職員で利用者全員の介護計画について検討し、計画作成担当者が意見を聞きながらまとめて作成することにした。また、状況が変わった時等には随時見直し、現状にあった計画となるようにしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別記録をしている。職員は申し送りの必要性を理解し、情報の共有を図っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 社会資源の把握に努め、必要に応じ、柔軟な支援に努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の役員の方がおり、相談などの協力が得られている。ボランティアの手話やフラダンスの公演を依頼している。応急手当の講習を消防署の方にしていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受け ている。</p> <p>(外部評価) 緊急時を除き、利用開始前からのかかりつけ医に受診 するようにしている。受診介助は原則家族が行い、都 合が悪い場合にはホームの看護職員が支援している。 医師、家族、ホーム間の連携は十分図られている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員を配置している。また、法人内看護師が常時 相談にのってくれる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には家族の協力を得ながら、面会して不安の軽 減に努めている。早期の退院がスムーズにできよ う、病院関係者や、本人・家族と話し合い、積極的な 支援に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化及び終末期の支援の方法を、本人、家族、関係 者らと話し合っている。状況の変化に応じ、納得のい く適切な対応ができるよう、よく話し合っている。</p> <p>(外部評価) 現在のところ、看取りは病院で、という家族の希望が 多いため、ホームでの看取りの経験はない。開設から 3年余りを経過しており、利用者の身体機能の低下に 備えて、ホームでの看取りに対応できるよう、重度化 及び看取りの指針を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、職員は消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全職員が使用法を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。内部研修・運営推進会議で災害対策について話し合っている。近隣住民の方にも緊急時に協力が得られるよう体制を整えている。	
			(外部評価) 年2回訓練を実施している。内部研修では、ホーム内での火災を想定しての避難訓練を実施し、消防署の協力を得ての訓練では、消火訓練や緊急時の対応などを学んでいる。AEDも設置しており、全職員が訓練を受けている。近隣の障害者施設との協力体制もできている。地域へは運営推進会議等を通して働きかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての契約書を交わしている。研修等だプライバシーの確保について学ぶ機会をもっている。	
			(外部評価) 職員の採用時に、プライバシーや守秘義務等の職業倫理について十分説明している。職員は、利用者のプライドを傷つけないよう配慮した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場を確保し、その人その人のあった必要な支援を行っている。希望や願いを引き出せるよう関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日頃のコミュニケーションなどから希望、要望を把握し、一人一人のペースや望みを重視した柔軟な支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけや希望の美容室に行けるよう支援している。お出かけの際にはおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は全て手作りである。農園で野菜などを作って栽培している。地元の食材、旬のものを使い、バランスのよい食事になるよう配慮している。	
			(外部評価) 利用者の力に応じて食事の準備や片づけをしてもらっている。ホームの菜園で取れた新鮮な野菜を、利用者と一緒に調理している。現在は介助が必要な利用者はいないが、それぞれのペースで食べられるよう配慮している。食事バランスやカロリーなどは管理栄養士にチェックしてもらい、アドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスのよい食事、献立に工夫している。水分摂取量をチェックして、摂取量の少ない方へは、ゼリーや果物で対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケア、うがいの支援を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄がトイレで行えるよう、定期的に声かけしている。必要に応じて、パットなどで対応している。	
			(外部評価) 適切な声かけや誘導等により、できるだけおむつを使わないケアに取り組んでいる。必要に応じてパッドを使う場合もあるが、パッドの適切な処理ができなかったために生じるトイレの故障を防ぐため、トイレ内の見やすい場所に片付けの方法を表示するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量は、1日1300～1500cc。食事は、食物繊維を多く取り入れるようにしている。毎日、運動の機会を確保して、体操や散歩を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 原則、毎日入浴ができるよう支援している。時間帯は、基本的には、ホームの生活リズムをもとにしているが、希望があれば希望に添えるように、調整している。	
			(外部評価) 毎日入浴できる。時間帯はホームの生活リズムに合わせているが、希望があれば可能な限り柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間はしっかり休まれるよう取り組んでいる。一人一人の状況に応じて、昼寝や休息がとれるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に、薬の種類や内容を把握している。薬の仕分けをはっきり分かるよう工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) アセスメントや継続的な情報収集により、生活歴を把握し、一人一人の出来ることに着目しながら、役割を見つけ出し、楽しんだり気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 会話の中から希望を聞き出し、お出かけ支援をしている。家族と一緒に墓参りや外出など、自由に出かけられている。	
			(外部評価) ほぼ毎日散歩に出かけている。利用者それぞれが希望する外出先を確認しながら、墓参りや外出に出かけたりすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いとして預かっているお金の中から、必要に応じて使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や暑中見舞い、絵手紙などで、やりとりができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 観葉植物やお花、飾り物によって生活感、季節感を取り入れている。庭に向かって大きな窓があり、自然の光をたくさん取り入れる事ができる。	
			(外部評価) 玄関、廊下などは落ち着いた家庭的な共用空間となっている。居間には、季節感を取り入れた利用者と職員の共同作品もさりげなく飾っている。浴室からは庭が見えるようになっており、ゆったりと温泉気分が味わえる。時には、実際に近くの温泉水を運び入れて入浴を楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファと食卓、畳の部屋があり思い思いに過ごされている。庭にもベンチを設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 寝具一式はホームの物であるが、家族と話し合い、馴染みのある家具を持ってきて頂いている。	
			(外部評価) 居室に使い慣れた家具等を持ち込んでいる。また、家族の写真やホームでつくった作品を飾るなど、利用者それぞれの趣味に合わせて落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室入り口には、分かりやすく表記している。一人一人の能力に応じてタンス等にも用途を表記している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	株式会社シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	愛媛県今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成21年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成17年3月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。
 「食事」・「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。
 「食事」・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。
 「運動」・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。
 「水分」・1日1500ccを目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。
 「排泄」・排泄対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。
 ・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が、祖母を家庭で看取った経験から、その経験を活かしたケアを実践したいとの思いで開設したホームである。管理者の思いに共感した職員が、その思いを活かして理念を構築し、職員は前向きな姿勢をもち、自主的に種々の研修に参加して、ケアの質の向上に努めている。また、アドバイスを受けた点等は、即改善につなげている。利用者に対しては、一人ひとりを理解し、それぞれが持っている力をその人に合った場面で活かし、利用者が自信を持って生活を楽しめるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりの家

(ユニット名) ところ

記入者(管理者)

氏名 桧垣 和恵

評価完了日 平成21年11月19日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、職員全員で作ったものである。フロアの目的に届くところに掲げている。ミーティングで、実践に向けての取り組みの評価を話し合っている。</p> <p>(外部評価) 全職員で「自分たちだったらどんなところで、どんな生活を送りたいか」を話し合い、「自由で笑顔がある、心かよう生活を共にしましょう」の理念を構築している。利用者と共に生活する姿勢が、平易で誰にも分かりやすい言葉で表現されている。玄関の見やすいところに掲げ、職員は朝夕確認して、ケアの基本として実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事ごとに、参加している。</p> <p>(外部評価) 毎日の散歩等を通じて地域住民との交流を図っている。最近は顔馴染みになり、野菜等をいただくこともあるなど、良好な関係がある。また、近隣にある障害者施設の喫茶に出かけたり、行事に参加するなどして交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 講師を迎え、家族や地域の人々との勉強会を開催している。 地域の広報等に、載せ呼びかけを行う。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、概ね、二ヶ月に一度開催している。ホームの取組みや利用者の状況報告、外部評価への取組みを話し合い、ホームの運営に活かしている。	
			(外部評価) 2か月毎に運営推進会議を開催している。ホームから利用者の状況やホームの行事などを報告し、参加者から要望やアドバイスをもらい、それを全職員で評価して、サービスの質の向上や運営の充実につなげている。	多くの方からの幅広い意見やアドバイスを得て、さらにサービスの質の向上につなげるため、参加メンバーを固定化することなく、民生委員や町内の方、家族、地域包括支援センター等へも参加を呼びかけていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ、市町村役場の方に、相談や助言を頂いている。家族会や行事ごとを案内して、交流の機会を確保している。	
			(外部評価) 市担当者に運営推進会議に参加してもらってアドバイスを得たり、ホームの勉強会に招いて講師をしてもらうなど、日頃から連携を図るよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体束縛に関する研修会に参加して、知識を得ている。また、ミーティングで報告勉強会を行い、正しい理解ができケアに活かしている。	
			(外部評価) 身体拘束に関する研修会に参加し、そこで得た知識を職員会で全職員に周知し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止に関するの研修会に参加し、知識を得ている。また、ミーティングで報告勉強会を行い、正しい理解を得ている。職員同士で、見過ごすことのないように常に声を掛け合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修に参加し、社内研修で報告、勉強会を行っている。必要な方には、説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は重要事項説明書や契約書に沿って丁寧に説明している。不安なことや不明なことに対しても分かりやすく説明するよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談窓口を重要事項説明書にて明記し、玄関に意見箱を設置している。家族会で、気軽に意見を頂けるようにしている。	
			(外部評価) 相談窓口を重要事項説明書に明記し、説明している。また、玄関には意見箱を設置しているが、投書はない。職員は、家族の訪問があった際や、家族会に参加した時等の機会を捉え、日ごろから声をかけて家族の要望をうかがうよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月2回の職員ミーティングで意見交換を行っている。日々のコミュニケーションを行い、意見を運営に活かしている。 (外部評価) 代表者や管理者は、常に職員の意見を聞く姿勢で運営に取り組んでおり、職員からの意見は随時取り入れている。利用者の安全のための整備や職員教育のための参加費・出張等について、提案を活かして改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状態を把握して評価している。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修・外部研修に参加し、随時報告会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修参加等で交流の機会がある。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) はっきりとした訴えが伝えにくい方にも寄り添い理解に努めている。本人に寄り添って援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) お話する機会を積極的に設けて、思いを良く聞き、受けとめる努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員間で話し合ったり、関係者の意見を踏まえ必要なことを検討して対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽をともにできる関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や旅行、行事など、ともに過ごす時間を確保し、自然な形で一緒に介護に関わることで気持ちの共有を図っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで馴染みの場所に行ってみることもある。馴染みの人との関係を把握し手紙や葉書を出す支援をしている。 (外部評価) 面会記載簿から、来訪者がとても多いことがうかがえる。家族はもちろん近所の方や友人・知人等の来訪もあり、訪問しやすいホームの特徴が現れている。訪問者の少ない利用者については、ドライブで馴染みの場所に出かけたり、手紙や電話で連絡を取るなどして、関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 家事や余暇活動などをしながら、職員が利用者の中に入り、自然なコミュニケーションがとれるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じ、面会、相談などの支援を行っている。関係者に対しての情報伝達も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や思いを日常の関わりの中で知り、受けとめる努力をしている。	
			(外部評価) 利用開始時はもちろん、日頃の関わりの中で、これまでの暮らしぶりや家族に対する思い、本人の意向等について聞き取っている。また、食の嗜好やこだわりなどについても機会を捉えて把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴などを継続的に聞き、把握に努め、本人や家族の理解、支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は研修等だ利用者の支援方法のありかたを学び、総合的な支援ができる力が養えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握し、チームでよく話し合っ て介護計画を作成している。必要に応じての見直しを行い、よりよいケアの実践へつなげている。 (外部評価) 以前は担当制を取っていたが、利用者全員の状況把握が全職員で共有できていないため、全職員で利用者全員の介護計画について検討し、計画作成担当者が意見を聞きながらまとめて作成することにした。また、状況が変わった時等には随時見直し、現状にあった計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別記録をしている。職員は申し送りの必要性を理解し、情報の共有を図っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 社会資源の把握に努め、必要に応じ、柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の役員の方がおり、相談などの協力が得られている。ボランティアの手話やフラダンスの公演を依頼している。応急手当の講習を消防署の方にしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受け ている。</p> <p>(外部評価) 緊急時を除き、利用開始前からのかかりつけ医に受診 するようにしている。受診介助は原則家族が行い、都 合が悪い場合にはホームの看護職員が支援している。 医師、家族、ホーム間の連携は十分図られている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員を配置している。また、法人内看護師が常時 相談にのってくれる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には家族の協力を得ながら、面会して不安の軽 減に努めている。早期の退院がスムーズにできるよ う、病院関係者や、本人・家族と話し合い、積極的な 支援に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化及び終末期の支援の方法を、本人、家族、関係 者らと話し合っている。状況の変化に応じ、納得のい く適切な対応ができるよう、よく話し合っている。</p> <p>(外部評価) 現在のところ、看取りは病院で、という家族の希望が 多いため、ホームでの看取りの経験はない。開設から 3年余りを経過しており、利用者の身体機能の低下に 備えて、ホームでの看取りに対応できるよう、重度化 及び看取りの指針を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、職員は消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全職員が使用法を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。内部研修・運営推進会議で災害対策について話し合っている。近隣住民の方にも緊急時に協力が得られるよう体制を整えている。 (外部評価) 年2回訓練を実施している。内部研修では、ホーム内での火災を想定しての避難訓練を実施し、消防署の協力を得ての訓練では、消火訓練や緊急時の対応などを学んでいる。AEDも設置しており、全職員が訓練を受けている。近隣の障害者施設との協力体制もできている。地域へは運営推進会議等を通して働きかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての契約書を交わしている。研修等だプライバシーの確保について学ぶ機会をもっている。 (外部評価) 職員の採用時に、プライバシーや守秘義務等の職業倫理について十分説明している。職員は、利用者のプライドを傷つけないよう配慮した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場を確保し、その人その人のあった必要な支援を行っている。希望や願いを引き出せるよう関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日頃のコミュニケーションなどから希望、要望を把握し、一人一人のペースや望みを重視した柔軟な支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけや希望の美容室に行けるよう支援している。お出かけの際にはおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は全て職員の手作りで一緒に食事をしている。その人に応じて、食べやすい形状にしている。	
			(外部評価) 利用者の力に応じて食事の準備や片づけをしてもらっている。ホームの菜園で取れた新鮮な野菜を、利用者と相談しながら調理している。現在は介助が必要な利用者はいないが、それぞれのペースで食べられるよう配慮している。食事バランスやカロリーなどは管理栄養士にチェックしてもらい、アドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスのよい食事、献立に工夫している。水分摂取量をチェックして、摂取量の少ない方へは、ゼリーや果物で対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケア、うがいの支援を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄がトイレで行えるよう、トイレへの誘導を行う。必要に応じて、パットなどで対応している。	
			(外部評価) 適切な声かけや誘導等により、できるだけおむつを使わないケアに取り組んでいる。必要に応じてパッドを使う場合もあるが、パッドの適切な処理ができなかったために生じるトイレの故障を防ぐため、トイレ内の見やすい場所に片付けの方法を表示するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量は、1日1300～1500cc。食事は、食物繊維を多く取り入れるようにしている。毎日、運動の機会を確保して、体操や散歩を行っている。個別で、排便チェックを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 原則、毎日入浴ができるよう支援している。時間帯は、基本的には、ホームの生活リズムをもとにしているが、希望があれば希望に添えるように、調整している。	
			(外部評価) 毎日入浴できる。時間帯はホームの生活リズムに合わせているが、希望があれば可能な限り柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間はしっかり休まれるよう取り組んでいる。一人一人の状況に応じて、昼寝や休息がとれるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に、薬の種類や内容を把握している。飲み込みの悪い人には、とろみをつけたり砕いたり工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) アセスメントや継続的な情報収集により、生活歴を把握し、一人一人の出来ることに着目しながら、役割を見つけ出し、楽しんだり気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 会話の中から希望を聞き出し、お出かけ支援をしている。家族と一緒に墓参りや外出など、自由に出かけられている。	
			(外部評価) ほぼ毎日散歩に出かけている。利用者それぞれが希望する外出先を確認しながら、墓参りや外出に出かけたりすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて、管理の出来る人は買い物など本人が使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や暑中見舞い、絵手紙などで、やりとりができるよう支援している。本人の希望により、家族から電話をかけてもらえるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 観葉植物やお花、飾り物によって生活感、季節感を取り入れている。庭に向かって大きな窓があり、自然の光をたくさん取り入れる事ができる。</p> <p>(外部評価) 玄関、廊下などは落ち着いた家庭的な共用空間となっている。居間には、季節感を取り入れた利用者と職員の共同作品もさりげなく飾っている。浴室からは庭が見えるようになっており、ゆったりと温泉気分が味わえる。時には、実際に近くの温泉水を運び入れて入浴を楽しむこともある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファと食卓、畳の部屋があり思い思いに過ごされている。庭にもベンチを設置している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 寝具一式はホームの物であるが、家族と話し合い、馴染みのある家具を持ってきて頂いている。</p> <p>(外部評価) 居室に使い慣れた家具等を持ち込んでいる。また、家族の写真やホームでつくった作品を飾るなど、利用者それぞれの趣味に合わせて落ち着いて過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや居室入り口には、分かりやすく表記している。一人一人の能力に応じてタンス等にも用途を表記している。</p>	